

台北でオニテナガエビを釣る！

技術士(衛生工学) 本 堀 雷 太

1.はじめに

釣り堀と言いますと、日本ではお年寄りがヘラブナやコイをのんびり釣っているイメージがありますが、台湾ではちょっと様子が違います。確かにコイやアオウオ、テラピアなどを釣らせる屋外型の釣り堀も存在するのですが、やはり若者からお年寄りまで楽しめるものとしては、屋内釣り堀でのテナガエビ釣りが挙げられます。

台湾では古くからテナガエビの釣り堀が紳士の社交場として愛されてきました。辺りが夕闇に包まれる中、仕事帰りの紳士がビール片手にテナガエビを釣るといって洗った楽しみなものです。多くの釣り堀では本格的な食事を楽しめ、最近ではカップルやファミリー連れでも訪れるようになりました。24時間営業の釣り堀も多く、テナガエビのみならず、カニやマス、テラピアを釣らせる釣り堀も見られます。台湾ではこのようなテナガエビ釣り堀のことを「釣蝦場」といいます。

今回は台北出張の際に立ち寄った釣蝦場についてレポートします。釣蝦場で釣ることができるテナガエビは、我が国には生息していない「オニテナガエビ」という種類です。まず、この種について説明します。

2.オニテナガエビとは？

オニテナガエビは東南アジアの河川下流域に生息する世界最大のテナガエビの仲間で、体長が30cmにも達します。特にタイやマレーシアなどの温暖な地域では、鉄脚を含めると1mに達するオスの個体も見られます。頭部が大きく、全体に青みがかり、鉄脚が特に青い事が特徴です。

食味に優れ、塩焼きや炒め物、蒸しエビ、揚げ物など様々な料理に利用されています。我が国においても、ブルーワームロブスターやアジアブルーロブスターなどの商品名で冷凍物が流通しています(けっこう高価です)。イタリア料理店のパスタ用の具材に利用されているようです。

オニテナガエビは周年成熟するため種苗確保が容易である事に加え、高価な食材として取引されるため、水産資源として重要な位置を占めています。東南アジアのみならず台湾や中国でも盛んに養殖され、我が国においても青森県弘前市などで温泉水を利用した養殖が行われています。



オニテナガエビ
(*Macrobrachium rogenbergii*)
十脚目抱卵亜目テナガエビ科

3.台北市内の釣蝦場

台湾では各地に釣蝦場がありますが、台北市内の繁華街にはほとんど見られません。例外的に「行天宮」の駅の近くに1件発見しましたが、ほとんど台北市郊外にあります。そのような中でオススメの場所は故宮博物院からもう少し山の中に入った「外雙溪」という辺りで、数件の釣蝦場が営業しています。完全に山の中なのですが、故宮博物院を経由するバスが非常に多く運行しており、簡単にアクセスできます。台北駅からですと、MRT(台北の地下鉄)「士林駅」下車、首都客運バス255系統で「外雙溪橋」下車、目の前に数件の釣蝦場が見えます。台北駅から45分程で外雙溪橋に到着します。途中に故宮博物院もありますので、故宮博物院を見学した後、エビ釣りを楽しむのも良いと思います。

今回レポートするのは、以前から台北出張の際にお邪魔する事が多い「春城釣蝦場」です。ものすごい看板です。



「外雙溪橋」のバス停前
※奥に見えるのが「春城釣蝦場」



春城釣蝦場の看板
※不思議な日本語が書いてあります。なおこの辺りでは、日本語も英語もほとんど通じません。

4. オニテナガエビの釣り方

受付で何時間釣るのかを告げると、入場時間を記した紙と1.5m程の竿、2本バリ式の仕掛けの一式を渡されます。そして受付向かいの冷蔵庫からエサ(干しエビと鳥のレバー)を自分で取り出し備付けのプラスチックトレーに盛ります。なお受付の際には、英語も日本語もほとんど通じませんので、簡単な中国語や筆談、身振り手振りも交えた方が良いでしょう。でもなぜか「エサ」と「大きい」だけは通じます。

訪れた日は、仕事の都合で午後1時くらいから釣り始めました。お客も少なくガラガラでした。なお、右写真奥に写っているおじさんはかなりの腕前で、糸巻き付きのマイロッドやマイ仕掛けを持参していました。

エビが放たれた大きな水槽では、結構激しくばっ気が行われています。このため水中の懸濁物が舞い上がり、常に濁っています。これはエビの酸欠を防ぎ、警戒心を解いてエサを食べさせるためのものです。

壁面についたL字のパイプに釣ったエビを活かしておくビクをぶら下げます。そして仕掛けをセットしてから、エサを付けます。レバーはナイフで細かく切って付け、干しエビは尾の方から縫い刺しにします。日本でのテナガエビ釣りとは異なり、針はかなり大きく(袖バリ2号くらい)、本当に釣れるのかと不安になります。

エビは酸欠に弱く、ばっ気口の近くや水槽のコーナーに群れていますので、その辺りに仕掛けを落とします。仕掛けは針が水底に着くように浮き下を調節し、時々軽く引きながら誘いを掛けます。しばらくすると、ウキがスーッと沈みませんが、ここでは合わせず、10秒ほど待ち一気に強くビシッと合わせます。日本のテナガエビと異なり非常に大きいため、強く合わせないとフッキングしません。ひとたびエビが掛かりますとグイグイとかなり強く引きます。暴れまわるため中々釣り挙げる事ができませんが、何とか頑張っって水面まで引き寄せます。ここでタイミングを見計らって、一気に抜きあげます。

オニテナガエビのハサミは強力ですので、挟まれるとかなり痛い思いをします。実際挟まれましたが、人差し指から血が出ました。ホントに痛いです。またそのままビクに入れるとビクが傷つきますので、釣ったらすぐにハサミを折ります。

釣りの手順はこんな感じなのですが、そんなに難しい事は無く、2時間で10匹程は簡単に釣る事は出来ると思います。私はこの日2時間で16匹釣る事が出来ました。釣りを終えるときは受付へ竿とエサを返し、精算します。春城釣蝦場は2時間で500元(約1500円)と結構な値段ですが、まずボウズはないのでお子様や女性の方も十分に楽しめると思います。釣れない場合はお店の人が水底をブラシでかき混ぜエビの活性を高めたり、新しいエビを追加してくれます。

精算の後、釣ったエビはその場でグリルにすることが出来ます(料金は無料で、道具や食器も貸してくれる)。またお店の人に調理料金を払うと色々なエビ料理を作ってくれます。ビールや飲み物も充実しており、お菓子やおつまみも置いてあります。釣蝦場は、実に至れり尽くせりのレジャー施設なのです。



オニテナガエビ用の釣り堀
※結構激しくばっ気されています。



エサ(鳥のレバーと干しエビ)
※レバーは備付けのナイフで細かく切って針に付けます。



ばっ気口の周辺に仕掛けを振り込みます
※水槽のコーナー部分は人気の1級ポイント。



ウキが沈み10秒程経ったら、一気にピシッとに合わせます。



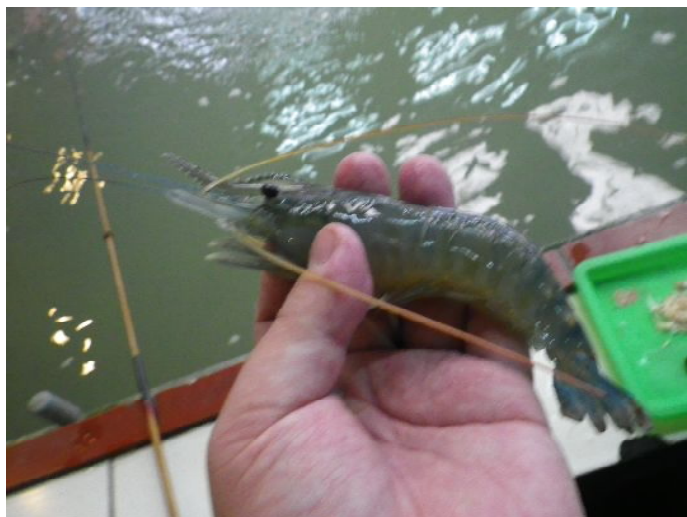
グイグイ引くので、中々挙げる事ができません。



手元まで頑張って手繰り寄せます。



釣り上げたオニテナガエビ(鋏脚を含め25cm程)



ピクに入れる前に鋏脚をもぎ取ります



もぎとった鋏脚。挟まれたらとつてもイタイデスヨ。

4. おわりに

今回ご紹介しました釣蝦場の様なオニテナガエビ釣り堀は台湾のみならず、ベトナム、タイ、香港など東南アジアに広く存在しています。皆様も東南アジアに行かれる事がありましたら、一度チャレンジしてみたいはいかがでしょうか？

また私のお客様から聞いた未確認情報ですが、タイの南部地域には体長40cm(鋏脚を入れると1m近く)になる天然のオニテナガエビが釣れる所があるそうで、いつかチャレンジしてみたいと密かに思っています。

★屋台でのテナガエビ釣り

台湾では夜になると路上に市が建ち、屋台で様々な美味しいものを食べる事ができます(「夜市」といいます)。また射的や輪投げなどのゲームの屋台も多く、夜遅くまで子供が遊んでいます。その中で子供だけでなく大人にも人気があるものに屋台でのテナガエビ釣りがあります。釣りといっても釣り針でエビを引っ掛けるというものですが、これが結構難しい。なぜなら釣り糸の部分が紙のこよりで出来ており、水を吸うと強度が低下してしまいエビを掛けても切れてしまう事が多いからです。日本のスーパーボール釣りの屋台と同じですね。

台北で最もメジャーな夜市である「士林夜市」の入り口にもエビ釣りの屋台が出ていました(日本語で「えび釣り」と書いてあります)。金額は竿7本で100元(約300円)です。まあ、竿といっても割り箸の長いやつなのですが…。テナガエビの種類はオニテナガエビではないような気がするのですが、よく分かりませんでした。

この夜市では他に3件のエビ釣りの屋台が出店されていましたが、いずれの屋台でも釣ったエビはその場で焼いて食べさせてくれます。もちろん持って帰っても OK です。また「金魚すくい」や「メダカすくい」も一緒にやっている屋台もあり、子供が群れていました。台湾へ行ったら、夜市で食事がてらエビ釣りを楽しむというのも一興ではないでしょうか？



士林夜市でのテナガエビ釣りの屋台
※地下鉄(MRT)「劍潭駅」下車5分



結構多くの人が集まってきました。



割り箸みたいな竿で釣ります。



結構大きいテナガエビが泳がされています。